

科目名	音楽 I		学年	普通科		必/選	単位数
			1 年	国文	普通	選択	2
				○	○		
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。						
使用教材	教科書：Tutti+（教育出版）						
評価	評価法	学習プリント、振り返りシート、筆記課題（鑑賞レポート、確認筆記テスト）、パフォーマンス課題（実技、創作、プレゼンテーション）、グループ課題への取り組みの様子などで評価します。					
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 			
		b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	ソルフェージュ（常時活動） 校歌を歌おう	<ul style="list-style-type: none"> 様々なリズムや音を視唱、聴音し、パターンを覚えるとともに、基本的な楽譜の書き方を学ぶ。 本校の校歌を覚えるとともに、歌詞の内容や音楽の特徴を学び、斉唱できるようになる。 	課題	課題	学習 プリント
			5	8	楽譜を読もう ・ピアノ譜	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な楽譜の読み方を学ぶとともに、楽譜を読みながら確認、理解し、鍵盤楽器で弾く。 	実技
	6	6	ピアノを弾こう	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの構造や歴史について学び、ピアノ曲を鑑賞して、楽器についての理解を深める。 様々な楽曲を鑑賞し、感じ取ったことをもとにレポートを作成する。 	実技	実技	学習 プリント
	7	2		<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習したことを確認する。 	筆記 テスト	レポート 筆記 テスト	レポート 振り返り シート
2	9	8	ソルフェージュ（常時活動） 古の音楽に思いをはせよう	<ul style="list-style-type: none"> 様々なリズムや音を視唱、聴音し、パターンを覚えるとともに、基本的な楽譜の書き方を学ぶ。 日本人の音感覚や美意識、他の文化・歴史との関わりを理解し、そのよさや美しさを自ら味わって鑑賞する。 	課題	課題	学習 プリント
							レポート

10	6	・箏について	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の成り立ちや歴史を学び、箏の音色に触れ、基本的な奏法を身につける。 ・「さくらさくら」の様々な奏法を通して、箏曲の表現技術を学ぶ。(独奏・重奏・歌唱) ・学んだ奏法を生かして、「さくらさくら」の重奏曲をアレンジ、創作する。【ペア、グループ活動】 ・創作作品を演奏発表する。 ・学習した内容についての確認をする。 	実技	実技	学習
		・箏の歴史		実技	実技	振り返り
		・箏の奏法 実技テスト ・アンサンブル ・奏法を工夫して「さくらさくら」アレンジ 創作発表会 筆記テスト		創作 実技	創作 グループ 課題 発表	シート 行動観察 課題進度
11	8	ハンドベルで発表会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドベルの美しい響きや音色を感じ取り、演奏に必要な基本的な楽典や音階を学び、奏法を身につける。 ・リズムや旋律、強弱など音楽を形づくる要素とその働きを理解し、表現を工夫して演奏する。【全体】 ・演奏したい曲をグループで選択し、音色や奏法の特徴を生かした工夫をしてアンサンブル演奏する。 【グループアンサンブル】 	実技	実技	学習
		実技テスト		実技	グループ 課題 発表	振り返り シート 行動観察 課題進度
12	4	発表会				
3	1	2 ソルフエージュ(常時活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズムや音を視唱、聴音し、パターンを覚えるとともに、基本的な楽譜の書き方を学ぶ。 ・アメリカで発展したポピュラー音楽のジャンルについて学び、様々なポピュラー音楽のルーツを知り、鑑賞する。 ・他者との調和と意識しながら、自分たちのイメージをもって歌唱表現を工夫し、演奏発表をする。 【全体・グループ活動】 ・1年間で学習したことを確認する。 	課題	課題	学習
		8 ポピュラー音楽のルーツ				レポート
	2	・ヴォイス・アンサンブル		実技	実技	振り返り
		・Oh happy day 発表会			グループ 課題 発表	シート 行動観察 課題進度
	3	2 まとめテスト		筆記 テスト	筆記 発表 筆記 テスト	振り返り シート

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・題材に対して毎時間真剣に全力で取り組みましょう。音楽は実技教科なので、各時間の積み重ねが大切です。
- ・合唱やアンサンブルではクラスで協力する姿勢を常に心がけましょう。クラスの和を乱すような行為(私語、怠学など)は、減点の対象となります。
- ・全ての活動に積極的に参加し、音楽を楽しみましょう！

※授業で取り上げる題材や内容は、進度や状況などにより、追加・変更する場合があります。

科目名	美術 I		学年	普通科		必/選	単位数
			1	国文	普通	選択	2
				○	○		
学習の目標	美術の幅広い活動を通して、美術を愛好する心を育むとともに、感性を豊かにし、造形的な見方考え方を働かせ、美術体験を重ねながら、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質能力を育成することを目指します。						
使用教材	教科書：「美術 I」（光村図書） 副教材：						
評価	評価法		作品等、提出物の完成度及び課題プリント、出席状況、授業態度等を総合的に評価します				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを学び、理解する。			
		b	思考・判断・表現	自己や他者を見つめ感じ取った事や考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かして構成する。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現の創造活動に取り組み、作品の造形的な良さや美しさを感じ取れる鑑賞態度を学ぶ。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							
期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	1	オリエンテーション 身近なものを描く	・「美術は自由だ」 ・自己紹介カード ・幾何形体のデッサンから始め、発展課題の静物デッサンに取り組み、深く観察する能力と最後までやり遂げる態度を身に付ける。また、「作る」だけではなく、「観る」からも学ぶことを知る。 ・美術作品を扱った鑑賞教材によって、作るだけではなく、見る（鑑賞）からも学ぶことを知る。	提出 作品	提出 作品	学習 プリント
	5	10					課題 進捗
	6	14	鑑賞（映像教材）				行動 観察
2 学期	9	12	セルフイメージの デザイン ・マッピング ・スケッチからの デザイン化	・生まれ育った環境（国・地域・信仰・先祖家族、様々な出会い）や趣味・特技、影響を受けた人や作品等から発想を広げ、自己らしさを象徴するイメージをデザインする。 ・色の性質について学習し、イメージを表現する効果的な配色を考える・平塗りの技法を習得する。	提出 作品	提出 作品	学習 プリント
	10	11					課題 進捗
	12	14	鑑賞（映像教材）				行動 観察
3 学期	1	10	一版多色版画	・これまで経験したことのない、一枚板による多色版画に取り組み、日本古来の版画の良さを知る。・デザインの基礎として色彩（色）の面白さ楽しさ、そして難しさを体験する。 ・学校生活からテーマを考え、タブレットを活用して写真を撮影し、3枚1組でテーマを表現する。 ・時間の経過や情景の変化、心の中のイメージ等を、複数の写真と音楽や歌、詩や小説などから言葉を選び、組み合わせで表現する。	提出 作品	提出 作品	学習 プリント
	2	4	テーマを決めて撮影する				課題 進捗
	3	2	鑑賞（映像教材）				行動 観察
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
「見る（よく観察する）」姿勢を基に、絵画、デザイン、立体の分野の基礎を理解し、自分らしい表現を目指します。制作に関連した言語活動、端末を使つての鑑賞など、他者の見方や社会の中の美術の働きについて感じる力を深めます。 ※授業の題材や内容は、進捗や状況などにより、追加・変更する場合があります。							

科目名	書道 I		学年	普通科		必/選	単位数	
			1	国文	普通	選	2	
				○	○			
学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める							
使用教材	教科書：『書道 I』（東京書籍）							
評価	評価法	提出作品、学習過程（活動の様子）、学習のまとめ（ワークシート・作品解説シート）の内容、用具・用材の扱いや主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。				
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1	4	6	書写から書道へ	国語科書写と芸術科書道との関連と違いについて理解する。書の美を構成する様々な要素や漢字の五書体の歴史的な変遷について理解する。臨書と創作について理解する。姿勢・執筆や用具・用材について理解し、書の学習方法を把握する。	ワークシート	ワークシート	活動の様子	
	5 6 7	20	漢字仮名交じりの書【創作】 （湯呑の制作）	漢字仮名交じり書の特徴を理解する。漢字仮名交じり書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を理解する。創作の手順と要領をつかむ。創作することの楽しさ、充実感を味わう。個性的でオリジナルな表現を工夫する。目的や用途に即した効果的な表現を身につける。	提出作品	提出作品	活動の様子	
	9 10	14	篆刻	自作の印（姓名印）を持つ喜びを味わい、篆刻に対する興味を持つ。文字造形の面白さを味わう。篆刻制作の手順を理解し、選文・検字や布地、運刀に関する知識や技法を習得する。篆書の特徴を捉え文字の配置や変化の付け方を理解して印稿を制作する。自己の構想に基づき刀意を生かした印を完成させる。	まとめシート 提出作品	まとめシート 提出作品	活動の様子	
3	11 12	14	漢字の書【臨書】	行書の主な特徴（点画の丸み・点画省略・筆順変化）を理解する。	提出作品	提出作品	活動の様子	
	1 2 3	4 12	仮名の書【臨書】	「蘭亭序」と王羲之について、基礎的な知識を身につける。鑑賞・臨書を通して、行書の用筆・運筆の技法を習得し、多様な書きぶりを理解する。 仮名の成立過程及び字源について理解を深める。 仮名独特の美しさ、用筆法、運筆のリズムを取得する。				
	担当者からのメッセージ（学習方法など）							
臨書学習では古典の特徴を観察し、用筆法や字形の取り方を体得します。創作学習ではさまざまな技法を活かして自分らしい表現を目指します。単元ごとに評価ポイントを示しますので、ポイントを押さえた提出物を作成してください。毎時間、真面目な態度で取り組んでください。怠学は、減点の対象となります。								